台湾地震緊急救援委員会 第2次派遣団報告書

＜報告内容＞

- 今回の派遣の目的
- 日程と概要
- 支援プロジェクトについて
- 今後の交流について
- まとめ

■今回の派遣の目的

1. 現地の市民、ボランティアによる、救援活動の連絡調整組織の可能性についての調査
2. 中期的支援と今後の交流の可能性についての調査
3. 福島小学校再建計画の調査
4. その他

■日程と概要

11月1日

- 13:00 台北空港着
- 14:00 国 聯盟(ジャンピン)氏と会う
- 17:00 台北YMCAにて、謝氏、邱 明民(キュウミンミン)氏と会う

概要:謝氏(前立法委員)、邱氏(台湾希望工作協会リーダー)両氏とも今回のキーパーソン。
  - 謝氏は今回の派遣団のコーディネート役として全日程に同行
  - 両氏とも横断的連絡調整組織に関して、関心を示すとともに、前向きに動いてくれる
  - 両氏に市民とNGOの「防災」国際フォーラム報告書(4年分)、市民がつくる復興計画、「仮設」声の写真集、復興誌贈呈
- 20:00 台北YMCA泊

11月2日

- 9:30 北YMCAにて、謝氏、邱氏、David張(デビッドチャン)、偕 進義(カイシンギ)氏等と会う

概要:謝氏(台湾YMCA明盟総主事)、偕氏(台北YMCA埔里救援活動センター主任)
  - 台北YMCA救援活動の報告を受ける。長老教会、神戸元気村等と共同して6つのプロジェクトに分かれて埔里の再建にあたっている
    1. 子どものケア
    2. プログラム管理
    3. 現場
    4. 内部調整(管理)
    5. ボランティトレーニング(すでに10/9、10/10から実施)
    6. 心のケア
       - 当委員会よりコーデイネーション組織の必要性を説明
- 10:40 台湾世界展望会(ワールドビジョン)訪問

邵 慶明(ジョウケイミョウ)台北世界展望会総長等10名と会う

概要:9月29日にスタックで埔里、東勢に送り込む。山間の村を中心に生活物資を配布
  - 仮設住宅建設計画
    台中県、南投県を中心に700棟(神戸より広い 13.7坪)
    原住民の為に700棟(仮設というより本設)
  - 当委員会よりコーデイネーション組織の必要性を説明
  - 政府がNGOの定期的な復興計画についての会合はあるが情報収集の場に過ぎない感じ
  - NGO同士の会合もあるにはあるがコーディネートが難しいとのことでどちらも中央中心で行われている
- 15:00 台湾高齢者総合協会訪問、張 梁州(ラェイコウ)台北高齢者総合協会理事長等4名と会う

概要:台北YMCA、世界展望会などの協力を得て4つのプロジェクトを行う
  - 心のケア
  - 3,000名のボランティア養成講座(神学生を中心に土・日に開催)
  - 250家族の原住民の為の仮設住宅建設(世界展望会と共同)
  - ケアステーションの設立、(2人のソーシャルワーカーが計画中)
    - 今後は、心のケア、家族・コミュニティのリハビリが必要なこと
    - コーディネーション組織の必要性を説明したところ関心を示し、多くのNGOと共同していきたいとのこと
    - 外国人ケアの説明(外国人地震情報中心、多文化共生センターのプロジェクト)にも興味を示した
    - 市民とNGOの「防災」国際フォーラム報告書(4年分)、市民がつくる復興計画、「仮設」声の写真集を贈呈
- 19:00 台中へ移動、台中泊

11月3日

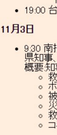
- 9:30 南投県政府(埔里)訪問

県知事、消防局副局長(胡 水旺氏)等10名と会合

概要:知事は不安が入っていたため20分程で退席、その後消防局副局長から南投県政府の救援活動の実施概要の説明を受けた。
  - 救援システムの充実(情報・連絡・法律)
  - ボランティアと物資の管理
  - 被災区の管理
  - 災害の専門機関(地方レベル)
  - 救済訓練
  - コミュニティ内での自治組織

市民とNGOの「防災」国際フォーラム報告書(4年分)、市民がつくる復興計画、「仮設」声の写真集を贈呈

- 11:00 国姓大震災救援交流会(邱氏のコーディネートによるもの)南投市長(李 朝卿氏)、自治会の代表、若干のボランティグループ等、約50人の参加者 概要:交流会であったが、市長が同席したため質問は市長に集中。まだまだ緊急救援期を脱していないという印象。しかし、2・3人のボランティアから熱心な質問を受ける。



- 14:00 南投県国姓郷福龍小学校訪問・学校視察

校長先生(洪 國村氏)と会合

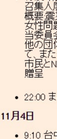
概要:小学校70名 生徒数 小学生136名 幼稚園児24名 先生14名

現在は近くのお寺を、臨時校舎として授業を行う

本校舎については、意思決定会により資金援助の決定がされていて設計が始まっている。(総額2億円)

現在、仮設校舎建設について総主体費用の目途がはずれ流れ。(建設費300万元の内170万元の目途がたっていない。)

仮設校舎使用後の計画について、地域物産展示場の構想があるが地主、県等の協議と同意が必要である。(村の特産物はいちご)



- 15:00 南投県國姓郷南港村被災地視察

概要:4メートル不盛り上がり「新しく山ができた。

山の中腹の家が約4,500メートル流された。

- 19:30 南投県埔里・新故郷文教基金会(地元埔里の団体で「新故郷」という雑誌を出版)訪問

召集人郎 嘉展氏等10名と会合

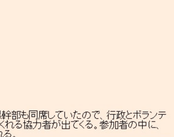
概要:震災後10月15日から救援活動を開始。「遠隔地域工作隊」を結成

女性問題へ取り組み女性ネットのエンパワーメントを進める事業を計画中(別紙資料2参考)

当委員会の横断的連絡調整組織の重要性の説明にも関心を示す。

他の団体、国と連携して一緒には事をやってみることに関心があるようだった。但し、資金について、まだその段階にはいっていない。

市民とNGOの「防災」国際フォーラム報告書(4年分)、市民がつくる復興計画、「仮設」声の写真集を贈呈



- 22:00 まとめ 台中泊

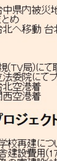
11月4日

- 9:10 台中市にて「921地震災後身心重建研究会」関係(赤十字台中支部主催)

台中市長、市民から約100名参加さらの聴衆者が、以前政府主導の元で、社会福祉などの分野でネットワークを作り始めようとしたと聞く声のかかった人たち)

概要:赤十字のNGOとは関係してその重要性、働き、政治家・行政を含んだ横断的連絡調整組織の必要性を当委員会より説明。団長の政府とNGOの関係は、時に賛成派、反対も監視していかなければならない。常にイコールの関係でという説明に興味、聞くがよせられた。

市民とNGOの「防災」国際フォーラム報告書(4年分)、市民がつくる復興計画、「仮設」声の写真集、復興誌を贈呈



- 13:00 台中市内被災地視察(日本人小学校等々)
- 20:00 外国人地震情報中心訪問
- 22:30 まとめ 謝氏、邱氏ミーティング

概要:邱氏に、昨日の新故郷文教基金会との会合の内容を説明。

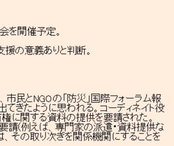
お互いに手を組み、連絡機能の設立を説明。邱氏と謝氏でもう一度協議をしてもらうよう促す。

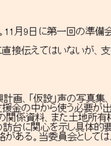
11月5日

- 11:30 台中県庁訪問

県幹部、台中県内のボランティア関係者、外国人地震情報中心スタッフら約20名参加

概要:参加者に、自己紹介をしてもらったところ殆、救援ボランティア団体関係者ということが判明。県幹部も同席していたので、行政とボランティアの関係を中心に説明。外国人地震情報中心スタッフも、活動内容を説明し、早速チラシを配ってくれる協力者が出てくる。参加者の中に、以前NGOにおりつ月前から関係していた人と邱氏のNGOと行政の関係について熱い議論が展開される。横断的連絡調整組織の重要性、行政とのイコール関係に皆関心を示した。





- 13:00 台中県内被災地視察
- 15:00 まとめ
- 16:00 台北へ移動 台北泊

11月6日

- 9:00 公視(TV局)にて取材を受ける。
- 10:00 立法委院にてブレス刊ンフォレンス。
- 12:00 桃園空港着
- 18:00 関西空港着

■支援プロジェクト

1. 福龍小学校再建について(順に学校側からの優先順位)
   仮設校舎建設費用(170万元)
   先生の為の寮建設(6棟)
   本校舎の備品購入費
2. 横断的連絡調整組織の設立、運営のための支援
   11月4日、5日に邱氏、謝氏との協議により南投市、埔里に設立の気運。11月9日に第一回の準備会を開催予定。
3. 台湾希望工程協会へのサポート(リーダー邱氏)
   邱氏は、中・長期での支援を考えており、30名のスタッフを抱える。邱氏に直接伝えてはいないが、支援の意義ありと判断。

■今後の交流について

今回ルートは違い、台湾という土地柄もあって持参した資料(市民がつくる復興計画、「仮設」声の写真集、市民とNGOの「防災」国際フォーラム報告書)は、「復興誌」に比べ、関心を示した。今後の、資料、情報提供の費用を支援会の中から使う必要があるように思われる。コーディネート役の謝氏が、現役を退いていることもありNGOの活動に本格的に参加しにくい状況にある。NGOの関係資料、また土地所有権に関する資料の提供を要請された。(NGOの資料を読み一冊の本を書きたいとのこと)横断的連絡調整は、今回の我々の訪問に関心を示し具体的要請例とは、専門家の派遣・資料提供などが出てくるかもしれない。これに関しては、謝氏及び邱氏が協議、団長に連絡がある。当委員会としては、その取り次ぎを関係機関にすることを約束。

台湾において、NGOの理解さらにNGOを通して国際的ネットワークの拡大を進めたい。来年2000年9月18日～21日(予)NGO国際緊急救援会議をアメリカ、メキシコ、トルコ、神戸に呼びかけ台中にて関係する研究を始めたい。それが、国際関係の展望を拓く事にもなるという希望が謝氏から出された。原案については当委員会からも作成、提案する。

■まとめ

震災から40日という時期の派遣は、緊急時期を脱しつつある現地への訪問目的に関連した活動ができたのではないかと思われる。

コーディネート役の謝氏は、現役を退いた政治家という点から我々も安心できた。また、南投県・市、台中県・市のキーパーソンとつながりを持てたことは、後の人脈によるものであり大きな収穫である。

神戸の震災から日本が「ボランティア元年」といわれた話をした。台湾は1999年から「ボランティア元年」にという声があがったように、市民間での ボランティア活動が生まれつつある。NGOのネットワークが生まれ、政府とも協働して復旧に取り組むことができれば、さらに復興につながる期待が生まれてくる。

また地方政府は、トルコ同様ボランティアを政府の活動にどう活用するかという観点が強いように思えた。しかし、ボランティアの存在、役割などを横断的に評価しはじめていく可能性はあると思った。今後、市民の側からNGOの意義、活動を活発に研究、実践していくなら少しずつ協働の可能性が生まれてくる筈。

なにより地震災を通して、様々なキーパーソンとなり得る方々を紹介してもらい、5日間という短期間で、台湾から世界へというスローガンとともに来年会議という話まで展開したことが一番の収穫であり、成功するため今後しっかり協議していかなければならない。